

<p>S1-008 □□□</p>	<p>【知財の価値評価／各手法】</p> <p>評価しようとしている知的財産から得られる将来の経済的便益(将来得られるキャッシュフロー)を現在価値に換算し、その額に基づいて価値評価する手法は(①)と呼ばれている。</p> <p>評価しようとする知的財産を取得するためにかかった費用、またはこれから取得するためにかかると予想される費用に基づいて価値評価する手法は(②)と呼ばれている。</p> <p>評価しようとする知的財産と類似する知的財産が取引されている市場の取引価格等を参考にして価値評価する手法は(③)と呼ばれている。</p>	<p>①インカム法(インカムアプローチ) ②コスト法(コストアプローチ) ③マーケット法(マーケットアプローチ)</p> <p>*これらの手法は金融市場における事業評価、企業価値評価に活用されているものである。</p> <p>第25回(特許)問1に関連</p>
<p>S1-009 □□□</p>	<p>【知財の価値評価／各手法】</p> <p>次の①～⑨の各用語について、知財の法であるコストアプローチ、インカムアプローチのうちどれに関連が深いか分</p> <p>①キャッシュフロー ②研究開発費 ③ ④権利維持費用 ⑤ライセンスアウト ⑥現在価値 ⑦出願費用 ⑧類似取引 ⑨資本コスト</p>	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #cccccc;"> <h1 style="margin: 0;">SAMPLE</h1> </div> <p>第7回(共通)問21に関連 第9回(共通)問2に関連</p>
<p>S1-010 □□□</p>	<p>【知財の価値評価／各手法】</p> <p>次の記述内容は、コストアプローチ、マーケットアプローチ、インカムアプローチのどれに関するものか？</p> <p>①比較可能な取引データを入手することが実務上は困難である。 ②事業収入や支出に対する、知的財産の寄与度(寄与率)を勘案する必要がある。 ③計算のために過去の財務データが有用である。 ④「時間的価値」が考慮される。 ⑤比較的客観的に評価しやすい。 ⑥経済的便益に対する評価が行われにくい。 ⑦ソフトウェアの価値算定には比較的適用しやすい。 ⑧広告宣伝など、他の要因による影響を受けやすい。 ⑨事業リスクが考慮される。 ⑩技術の寄与率を簡易的に求めるため、利益三分法が用いられることがある。 ⑪ライセンスアウトしているものについては比較的適用しやすい。 ⑫利用していない特許を売却する際の最低売却価格の算定根拠となる。 ⑬初期投資額だけでなく計算期間中の追加投資額を勘案する必要がある。 ⑭客観性が高いが、将来の利益やリスクを反映していない。</p>	<p>①マーケットアプローチ ②インカムアプローチ ③コストアプローチ ④インカムアプローチ ⑤コストアプローチ ⑥コストアプローチ ⑦コストアプローチ (開発費用が比較的明確であるため) ⑧インカムアプローチ (②の裏返しの問いである) ⑨インカムアプローチ ⑩インカムアプローチ ⑪インカムアプローチ ⑫コストアプローチ ⑬インカムアプローチ ⑭コストアプローチ</p> <p>第16回(特許)33問に関連</p>